

平成 19 年 3 月 22 日 記者会見 会頭発言要旨

■時事の話題

○京都の景況について

内閣府が発表した 3 月の月例経済報告では、企業部門の堅調さや雇用環境の改善が見られるものの、個人消費と賃金動向に、まだ不安要素がある。一方、京都は、ホテルの稼働率が過去 2 番目となる高水準で推移するとともに、百貨店売上が 4 ヶ月連続で前年を超えるなど、順調な景気回復が続いている。

○株価、為替の動向について

最近、株が大きく値動きしている。中国を震源とする世界同時株安は、中国当局による急激な金融引き締めの影響や、米国経済の先行き不透明感が再浮上するなど、悪材料が重なった結果のようだ。しかしながら、日本の企業は好調を維持しており、再び緩やかな上昇基調に戻るだろう。

○春闘について

大手企業の経営者から、春闘の回答が発表された。各社の業績により回答額にばらつきがあったが、2 年連続の賃上げとなった。企業格差が拡大している現在、市場横断的な横並びの賃上げ交渉は時代に合わなくなっている。個別労使で決定するのが望ましい姿だ。

■時事の話題

○平成 19 年度本商工会議所事業計画（案）について

具体的な主要事業項目(案)をとりまとめた。「京都ブランド事業」、「産学公連携事業の促進」、「中小企業の振興」の 3 つを柱とし、会員企業の経営を支援し、迅速丁寧なサービスの提供に努めるための具体的な項目を盛り込んだ。また、サミット誘致をはじめ、ADB 総会への支援やアジア諸国との連携を視野に入れた国際ビジネス促進協議会の事業などにも力を入れていく。

○京都・花灯路 2007―東山―について

3 月 10 日から 21 日にかけて、5 回目の「京都・花灯路―東山―」を開催し、約 128 万 3 千人（昨年：104 万人）の人々にお越しいただいた。また、今回は、文化的・歴史的遺産の保存など、全世界で社会貢献活動を行っている「アメリカン・エクスプレス財団」から、10 万ドルの協賛金を頂き、5 周年記念の特別協賛事業も行った。花灯路事業が海外からも評価されたことを大変うれしく思

う。

■記者からの質問

○2008 年サミット誘致について

昨年暮れに、北海道の洞爺湖が正式にサミット誘致に乗り出し、有力視されている。官邸の一部が警備しやすいということで、高橋知事に誘致表明するよう働きかけたと聞いているが、日本の警察の警備力を考えれば、北海道でも京都でも、問題はないはずだ。決定まで 1 ヶ月程だが、それまでは京都府、京都市とともに積極的に誘致活動に取り組んでいく。

以上